

徳山高専 2018 事後アンケート結果

(集計：若杉)

1. 対象と回答率 参加学生数 計10名(5年生)、回答者数 10名、回答率 100%

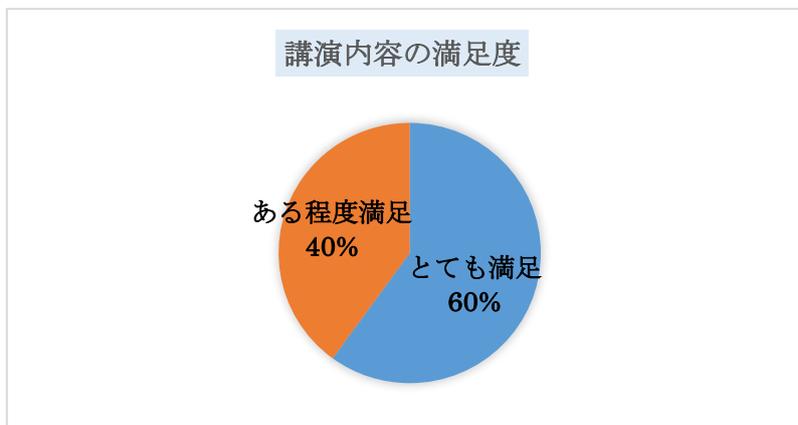
参加者内訳：男性7、女性3

進路希望：就職6、進学4

2. アンケート結果

(1) 講演の内容は満足のものでしたか？その理由は？

・とても満足した6 ・ある程度満足した4 ・やや不満だ0 ・大いに不満だ0 ・無回答0

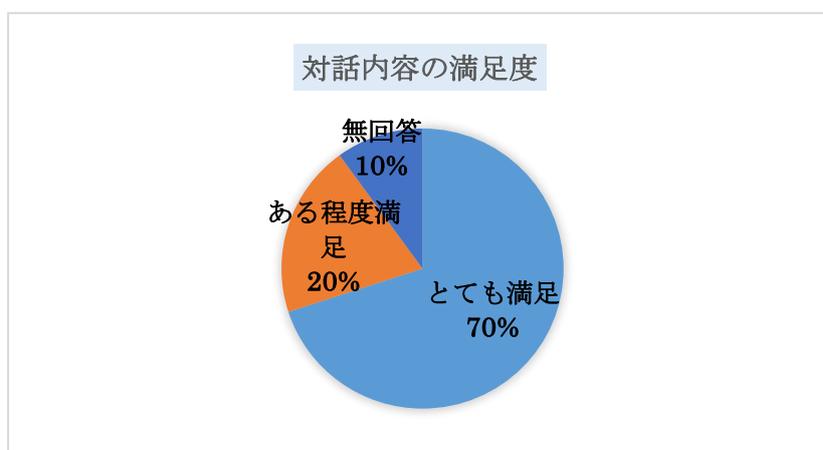


理由：

- ・原子力発電に関して難しい内容だったが、分かり易く教えてくださったから。
- ・知見が広がった。初めて知ることが沢山あった。
- ・専門分野でない貴重な話を聞けたから。
- ・エネルギーの85%は化石燃料など、初めて聞くことが多かったため。
- ・授業で習ってない詳しいところを聞けたから。

(2) 対話の内容は満足のものでしたか？その理由は？

・とても満足した7 ・ある程度満足した2 ・やや不満だ0 ・大いに不満だ0 ・無回答1



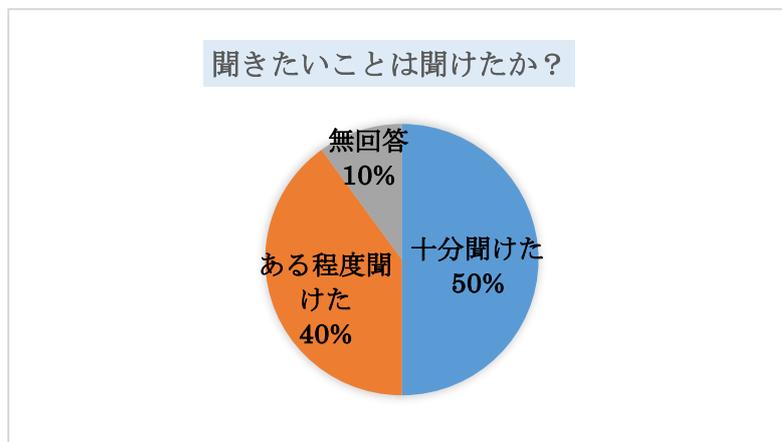
理由：

- ・一つ一つの質問に対して時間をかけて丁寧に教えてくださったから。
- ・知見が広がった。

- ・同じ目線で話せたので、より詳しく聞けて良かった。
- ・講義で分からなかったことなどを聞いた。
- ・講演にはなかった資料など、補足としてさらに詳しく聞けたから。

(3) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

- ・十分聞くことができた 5
- ・ある程度聞くことができた 4
- ・あまり聞けなかった 0
- ・全く聞けなかった 0
- ・無回答 1

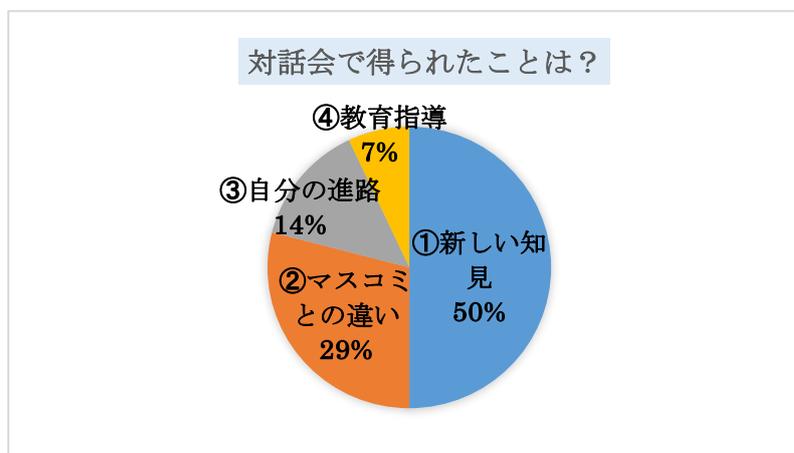


理由：

- ・廃棄物の処理方法について聞くことができた。
- ・対話で聞くことができた。話しやすかったので聞いた。

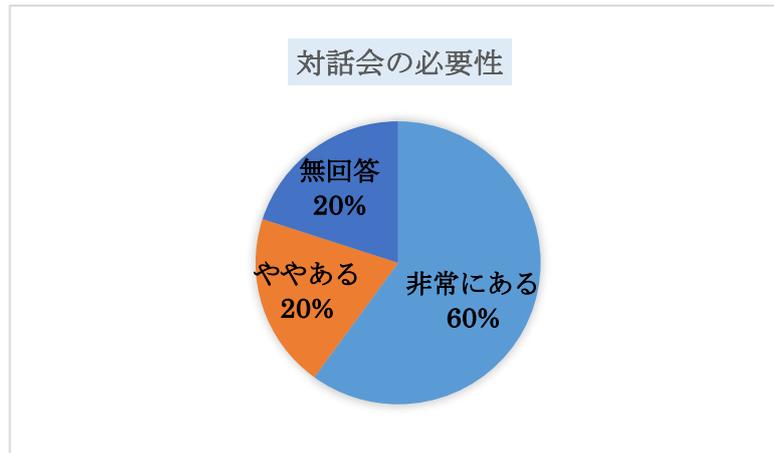
(4) 今回の対話で得られたことは何ですか？（複数回答も可）

- | | |
|---------------------------|---|
| ① 新しい知見が得られた。 | 7 |
| ② マスコミ情報と今回の対話会情報に違いがあった。 | 4 |
| ③ 自分の将来の進路の参考になった。 | 2 |
| ④ 教育指導の参考になった。 | 1 |
| ⑤ 特に新しい知見は得られなかった。 | 0 |
| ⑥ その他 | 0 |



(5) 「教員とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？その理由は？

- ・非常にある 6
- ・ややある 2
- ・あまりない 0
- ・全くない 0
- ・無回答 2



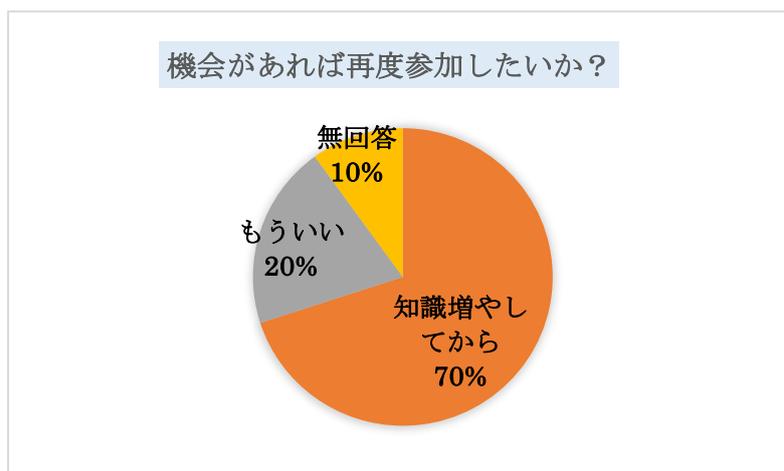
理由：

(非常にある/ややある)

- ・若者に伝わっていない事が多くある。
- ・学生が情報を得る手段に限界があるから。
- ・知識が深まるから。
- ・対話が楽しかったから。
- ・学生側の意見としては、自分たちはまだ最近のことしか目に見えないけど、シニアの方は自分たちが生まれる前からの事情を知っているから、タメになる。

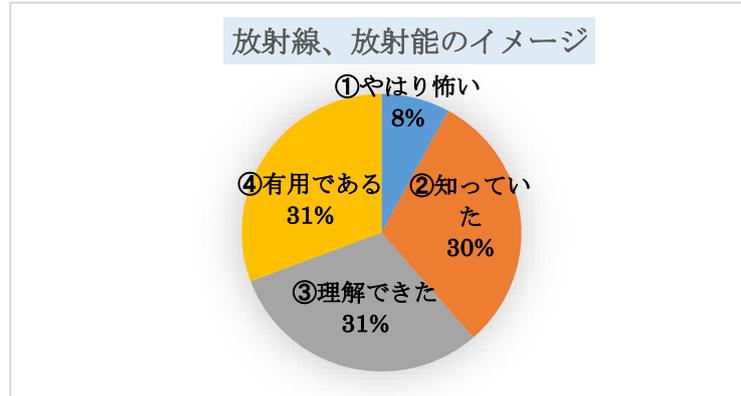
(6) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？

- ・まだまだ話したりないので参加したい 0
- ・もっと知識を増やしてから参加したい 7
- ・十分話ができたらもういい 2
- ・二度も必要ないと思うからもういい 0
- ・その他 0



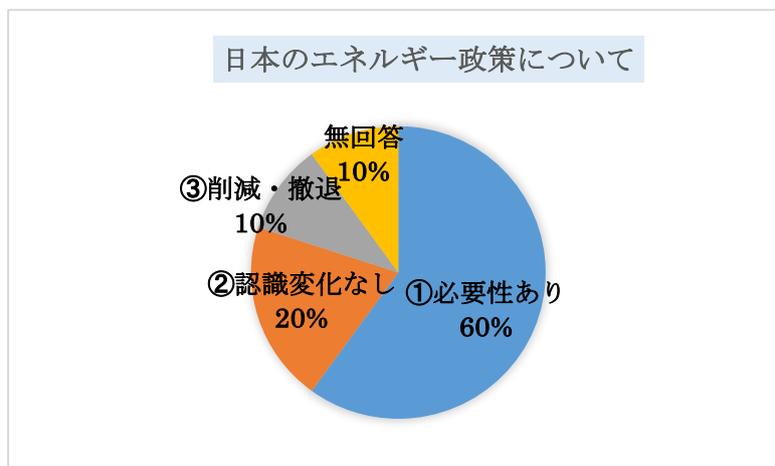
(7) 放射線、放射能に対してどのようなイメージを持っていますか？ (複数回答も可)

- ①放射線、放射能はやはり怖い。 1
- ②一定のレベルまでは恐れる必要はないと以前から知っていた。 4
- ③一定のレベルまでは恐れる必要がないことを講演、対話から理解できた。 4
- ④ 放射線、放射能は生活に有用であることを前から知っていた。 4



(8) 日本のエネルギー政策では、原子力発電を基幹電力（2030年に発電電力量の20～22%）とし、省エネ・再エネ利用の拡大や火力の高効率化により、可能な限り削減していくとされています。対話も含めてあなたの認識は次のどれですか？その理由は？（複数回答も可）

- | | |
|---|---|
| ① 原子力発電の必要性を強く認識した。削減又は撤退すべきでない。 | 6 |
| ② 原子力発電の必要性は分かっていたので、対話の前後で認識は変わらなかった。 | 2 |
| ③ 原子力発電の必要性は分かるが、やはり危ないから早期に削減又は撤退すべきだ。 | 1 |
| ④ 原子力発電を止め、再生可能エネルギーを最大限使えばよい。 | 0 |
| ⑤ その他 | 0 |



理由：

- ①・原子力はただ危険なものかと思っていたが、改善策は多くあると感じた。
- ・現状での電力供給の限界を感じた。
 - ・ほかに有効な策がないから。
 - ・上手く原子力を使うべきだと思う。

(9) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。

- ・有意義な時間でした。
- ・建設しなければ建設の技術が廃れ、技術も輸入に頼らなければならなくなる。建設していない間は廃炉の技術を高めて、は炉技術を輸出したり、廃炉しやすい発電所の開発をしたらいいと思う。

(集計者の感想)

1. 講演内容、対話内容ともにほとんど全員が“満足した”と答えている。特に対話に対する満足度が高く、“講義で分からなかったことを丁寧に教えてくれた”等、双方対話の価値を認めたコメントが多かった。
2. “対話で得られたこと”の質問では、大多数が“新しい知見”と答えており、これは想定されることであったが、10人中4人が“マスコミ情報との違い”と答えた。これは前項とともに対話の効果を認めたものであるが、一方マスコミの影響力の大きさも感じられる。
3. “対話会の必要性”については、8人が“非常にある/ややある”と答えているが2人が無回答であった。この無回答について詳しく見ると、1人は次の質問で“もっと知識を増やしてから参加したい”と答えている。他の1人は必要性の質問を含めたアンケートの裏側の質問全てが空白になっていて、多分裏側をチェックしなかったのであろう。いずれにしても必要性について否定的な意見ではないようだ。
4. “機会があれば再度シニアとの対話に参加したいか”については、“話し足りないので参加したい”と答えた学生はおらず、ほとんどが“もっと知識を増やしてから参加したい”と答えている。ここでも無回答者が1人いるが、アンケートの裏側をチェックし忘れた学生であった。前項の通り、対話の必要性は認めているので、さらに積極性が増すことを望みたい。
5. “日本のエネルギー政策”に関する質問では、10人中8人が原子力の必要性を理解していると答えており、ある程度期待していたことでもあるが、嬉しい反応であった。“原発の必要性は分かるが危ないから早期に削減又は撤退すべき”と1人（女性）が答えていた。彼女は対話会の必要性は“非常にある”としており、放射線、放射能についても“一定のレベルまでは恐れる必要はない”と分かっているが、やはり原発を怖がる気持ちはなくならないようだ。
6. 以上から、ほとんどの学生が原子力の必要性は認めているものの、まだ原発の怖さが抜けない学生がいることも分かった。対話の必要性は高く認識されているので、さらに参加者のニーズに沿って企画された活動を今後も継続すべきと考えられる。

以上